

# 萬歳流し

## 第一部 (才蔵の囃し言葉) [カッコ内は太夫の受け答え]

こら、まんざい こら、まんざい まんざい まんざい

太夫さんと 才蔵と 萬歳に出たれば 太夫さんの 扇子で 才蔵の頭を ス  
ッカラカンの カンカンカンと

(あ そだ そだ)

たたかれて こぶがつく 芽がさしゃ 花咲く 実がなった その実が何だと  
尋ねて 太夫さん

(あ そだ そだ)

むかしは 大判小判だ 当世で 金貨に銀貨だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

これ様のお座敷 どっさり積もた

(あ そだ そだ)

お庭に <sup>もみ</sup> 朮山 <sup>こめ</sup> 米山つもた

(あ そだ そだ)

山でたとえたら <sup>つくばさん</sup> 筑波山だ <sup>がばさん</sup> 加波山だ 会津の国の磐梯山 庄内の国の<sup>ゆんどのさん</sup>湯殿山  
月山 羽黒山の三山だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

駿河で富士山は 日本一だよ 西では鳥海山 <sup>せんでや</sup> 仙台で<sup>きんかさん</sup>金華山

(あ そだ そだ)

<sup>まづめえ</sup> 松前の<sup>うすがだけ</sup>有珠岳 <sup>かいがだけ</sup> 駒ヶ嶽 <sup>いわきさん</sup> 津軽の岩木山 南部で<sup>おそれざん</sup>恐山だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

おが しんざん ほんざん 五城の目の森山 馬場の目の馬場の目岳 船岳は峠だで

エ

(あ そだ そだ)

にべつ みょうけんさん もりよしざん 能代の房住山(\*\*)に 勝田山だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

い たいへいざん さんきちさんで おえだらの太平山は三吉山だ(\*\*\*) 太夫さん

(あ そだ そだ)

せんぼく 山の名言うたなら さかい 唐松山 神宮寺の神宮寺岳 やさわぎ 八沢木で  
ほろわさん かねざ はつまんさん  
保呂羽山だ 金沢の八幡山

(あ そだ そだ)

みたけさん あさひおかざん いかだ せんじんさん 南郷で南郷岳 むかいのばん  
横手の御嶽山と旭岡山だ 筏で仙住山(\*\*\*\*) 南郷で南郷岳 むかいのばん  
ずいさんだ 太夫さん

(あ そだ そだ)

もちだ たいし あけさわ とん やま きんぼうざん  
持田で大師さん 明沢のとがり山は金峯山だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

ますだ こんじん あさめ  
増田で月山や金神さんだ 浅舞の八幡山だ 岩崎も八幡山だ 太夫さん

(あ そだ そだ)

ゆざわ あたごさん いんない ぎんざん さんじんさん  
湯沢で愛宕山 院内も愛宕山で銀山の山神山

(あ そだ そだ)

1 又は 2

1

山神山の頂上までも 当家に喜びがつづくとお祝いだよ 太夫さん 萬歳

(よう言うたり 数々まいる千年のお祝 アラお目出たい 新年の御祝からお

めでたい)

2

山神山の頂上ならまだ良い 太夫さん

(あ そだ そだ)

秋田と山形と宮城の三縣の境までも 当家にお金がつづくとお祝だよ 太夫  
さんまんざい萬歳

(よう言うたり 数々まいる千年のお祝 アラお目でたい)

これで一番です。

## 第二部 (御門開き)

(才蔵)

いざいざ太夫様より 御門開き御萬歳 お始め候。

(歌の部分 太夫および才蔵)

鶴は千年 亀は万劫 君は栄えておわします 御おん殿どの造りの結構は  
みょうえいてん(めいてん) 明 天 あんらくくに に安楽国 ごきん 御禁 (古今) の廻りを切り立て切り立て始めて仏法を  
ひろ たも いく 弘め玉たまう幾千萬歳と申せば みろく 弥勒の出世 しゃか 釈迦の遺 えい(ゆい)きょう 経 みだ 弥陀の弘 くかい(くがん) 願  
より立て始まり候えば 峰の真砂まさごは谷に下くだり谷の真砂は峰のんぼに上る 大盤石だいばんじやくな  
岩いしとなって岩いしに苔蒸しはえす這おい生にえて西にし東ひが北きた南みなみゆらり東し来らり西し来らり等(ひらいしやりとう) 万民ばんみんも

今日祝われ玉えば 北は金剛夜叉 丑寅は多聞天 未申は増長天 戌亥は  
広目天 華嚴に阿嚴に宝塔般若大般若 法華に涅槃に並びに御陣 扱は浄土の  
三部の御経 一切経は七千余巻に天台は六十巻俱舎の御経は三十巻 分ずる  
御経は二十四巻に抑も法華経と申せば(\*\*\*\*) 去るに依りて 大国は八地の  
八棟に御立ちよって 四方の悪魔を他方に払えば内には福の宝を招き寄せ 誠  
に目出度候えける 重ねて御祝い申せや 才蔵離せや萬歳  
とこれは当年の悪魔払いでもう一つ来年の分を

(囃し言葉の部分 才蔵)

まんざい.....めでたい プクプクプクプクイ 太夫さん  
旦那さん金ばこ お母さま針ばこ 嬢ちゃん人形ばこ 坊ちゃん本ばこ 大工  
さん道具ばこ 芸者の三味ばこ 炉端で炭ばこ ねこばこ 椀ばこ 銭ばこ  
太夫さん  
このたび この醍醐の この家のお座敷 七福神がまいこんで 恵比寿に大黒  
おかのかみに布袋 福祿 毘沙門天 弁才天も舞い込んで プクプクシャン  
その気であの気でこの気でその気で やらなきや身上がもてない 太夫さん  
ホラ 生米食わんとてこでも 甘酒粕とりらっさい  
まんざい まんざい まんざい おっさいぼやませんぼや 天びん棒 内から  
かうのが心張棒で 昔でいうたら武蔵坊や天一坊 学校の生徒は通信簿で 背  
中の坊なら赤ン坊だ 流しの棚では味噌すり棒 洗たくするのがシャンプーで  
かせいで働く辛抱で 才蔵の好きなの朝寝ン坊だよ 太夫さん  
そろたら その手で あの手で この手で 太夫さん ほら そんだな 太夫  
さん

(い)

旦那さん金持ち お嬢さん果報もち 太夫さん丸持ち 才蔵の気持ち 姉さん  
は身持ちに子持ちに孫ひこ栄えて この家が繁盛だ 太夫さん

(ろ)

てんてんぱかぱか菱コの手 伸ばして絡むがささげの手 垣根にのぼるはかぼ  
ちゃの手だ やぶから出るのは熊コの手 鼓に絡まる才蔵の手 白壁塗るのが  
左官の手で 頭コ刈るのが床屋の手だよ 太夫さん

(は)

そら太夫さん 命と細引や長げほどいい かまどとぼたもちや大きほどいい  
男と牛蒡だけは黒いほどいい 大根と姉ちゃんの面コは白いほどいい 人参コ  
と南蛮コは赤いほどいい 豆蔵と才蔵がしゃべればいい ほら うんとてしゃ  
べればいい

### 第三部 (秋田御国万歳 太夫と才蔵)

(太夫) 吉祥千年 年あらたまる 一夜のとしも 明けぬれば

(才蔵) そおれ

(太夫) 梅花咲き 鶯はほうほけきょうと 初音をいたす おりからなれば

(才蔵) そうれ

(太夫) めでとうで良うて あとなる才蔵 詰て居るか

(才蔵) やっとこのおさいのさいの おまけでさいの才蔵だ

(太夫) そおれ

(才蔵) 狂言名題なだいで申そうなれば 摂州せつしゅうでは一ノ谷 二に白河しらかわの盛衰記

(太夫) ありゃ

(才蔵) 梶原源太を見るような 大内鑑おおうちかがみおしいだされ ばんにいり山 桜丸

(太夫) それ

(才蔵) なれども鼓、頭巾持参で ちゃんとかしこまって候

(太夫) 何事も御身は従いにつき しっかりと囃して参れ

(才蔵) いざいざ太夫さま お先、お始め候

### (歌の部分 太夫および才蔵)

ごまんざい おん おわしま おんしるつく けいこう もん この やぐら  
御萬歳とや 御国も栄えて御在す 御城作りの結構は門々な九つ 楼々の其  
の数は玉も連ねし如くなれば 極楽浄土に異ならねば けほど 目出度御  
しろいのしたはら(しろした) 城 下 に名の有る ちょう 町 は三十六町 其の外は数知れず 寺の数は三百  
三十三寺なれば 北に当りて っ てんとくじ こう 香の煙は雲に上り いつも たいせいね  
おんとうみょう おんたまや さてみずかみ みずしも こしおうごんげん  
御燈明 光り輝く御霊屋 扱水上には藤倉観音 水下には古四王権現 海の  
おもて なが 面を詠むれば天竺の方よりも綾や 錦を帆に掛けて 数多の宝を御船に積んで  
秋田の 湊みなとに船が着くぞや 誠に目出度候え

## (女声パート 歌詞)

- 一 栄えておわします おんとのつく 御殿造りの けっこう 結構は
- 二 えー 萬歳と申せば みろく 弥勒の出世
- 三 あー 谷の真砂は峰に のんぼ 上る だいばんじゃく 大盤石
- 四 んー ゆらり しらりしゃらりと(ひらいしゃりとう) 東来西来等 ばんみん 万民も こんにち 今日
- 五 うー ひつじにさる 未申は ぞうちょうてん 増長天
- 六 一切経は七千余巻に天台は六十巻
- 七 法華経と申せば 去るに依りて 大国は
- 八 払えば内には福の宝を招き寄せ

女声パートは、高田瞽女の門付唄を用いたヴァージョンもある。

## 編集註

本作の詞章は元来口承芸能であり伝承者による異同もある。自筆譜では主に平仮名で記載。作曲者はスコアに添えた文章で、「曲の素材は秋田県横手市の萬歳で太夫・松井福蔵さん（五十三歳）と才蔵・最上盛治郎さん（五十九歳）が伝承する歌い方、唱え方による。一九七三年八月、七四年九月、七五年三月の録音テープから採譜、構成し、両氏からの聞き書きで補った。」と記している。日本伝統文化振興財団のCD解説書に詞章を記載するにあたっては、自筆譜をもとに、これに作曲者所蔵の現地取材の録音資料の内、一九七五年三月の現地での録音カセットテープ、『萬歳をたずねて』（東芝EMI、昭和五十二年）レコード解説書、『秋田県無形民俗文化財「秋田万歳」』（秋田市教育委員会、昭和五十三年）を参考に、漢字表記とルビの表記を改めた。各資料で異同がある際は原則として自筆譜を

優先したが、作曲家・仙道作三氏（本作の作曲時に取材で協力）ほか秋田県出身者の助言を参考にして地名等の表記は改めた。ルビは楽譜上の発音に準じ、書き言葉の読みと著しく異なる場合のみ、それをルビ内の括弧で補った。

(\*) 自筆譜では「心山(しんざん) 木山(きざん)」という漢字・振り仮名の表記だが、「真山(しんざん) 本山(ほんざん)」が正しい。

(\*\*) 自筆譜では「万寿山(ばんじゅさん)」だが、これは旧琴丘町の「房住山(ぼうじゅさん/やま)」で、発音は現地収録テープに従って「ほんじゅやま」とした。次は、自筆譜では「かたが 山」と一字空白だが、「勝田山(かつたやま)」だと思われる。ここでの発音は「かたがる(り)やま」。

(\*\*\*) 自筆譜では「おえだらでは」となっているが現地収録テープに従って「おえだらの」に訂正した。「おえだらの」とは「自分たちの」という意。この太平山は羽後町の山、三吉山は雄物川町（現横手市）の山を指すか。ちなみに秋田市の太平は古くから「おいだら」「おえだら」と呼ばれ、また秋田市の三吉神社は「みよしさん」「さんきちさん」の愛称でも呼ばれている。

(\*\*\*\*) 自筆譜では「仙人山(せんじんさん)」だが、現地収録テープでは「せんにんさん」。これは山奥に住む者を指す「仙住山(せんじゅうさん)」のことだと思われる。また横手市山内さんない筏字いかり伯耆あざ沢ほうきざわにある「筏の仙人さま」と呼ばれるぼったい筏隊山神社とも関連すると思われる。

(\*\*\*\*\*) 「御門開萬歳」のこの部分には、実際には経文を列挙する以下の章句が入るが、本作では省略されている。

「一部八卷二十八方用字の文字書釈集巻に至るまで 仁王経に薬師の経文 未天迦至  
経文 我志経文 一切功益不明説なせし 安穩と此の文を唱うる時は」